

## 〇つばやき

2年生の国語の授業を参観した時のことです。

漢字の成り立ちを学ぶ授業でした。先生が黒板に問題を示しながら発問（授業中に教師が行う意図的な問いかけ）していきます。

（岩井先生）

（子どもたち）

「田」と「力」を組み合わせている漢字は何でしょう？ → 「男」  
 「山」と「石」では？ → 「岩」  
 では「生」に何を組み合わせると「星」になる？ → 「日」

・・・軽快に授業が進んでいきます。子どもたちは、回答をしながら、さまざまなつばやきをしていきます。

「田んぼで力をガンガン出すから、男なんだ。」「山の上じゃなくて、下に石があるの？」「お日様が生まれて星になったんだ。」それぞれに漢字に対するイメージをもちながら、知識を身に付けていく、よい場面だと思ひ眺めていました。

しかし、この時私は「お日様が生まれて星になったんだ。」という言葉が気になりました。心の中で「星の誕生は、宇宙空間のガスが集まって起こるものだけど、最初はみんな恒星（自ら輝く星）だったけ？星という漢字は科学的な思考から作られたのか？」とひとりよがりな考えてしまいました。

参観後に調べてみたら、私の考えたこととは全く関係がありませんでした。

（Webページ「由来の豆知識」より）

「星」という漢字は、上の「日」の部分と下の「生」の部分に分解することで、意味や由来がはっきりしてきます。

上部の「日」は、もともとは「晶」という漢字が使われていました。

「晶」はもともと「澄み切った星の光」をあらわす象形文字です。

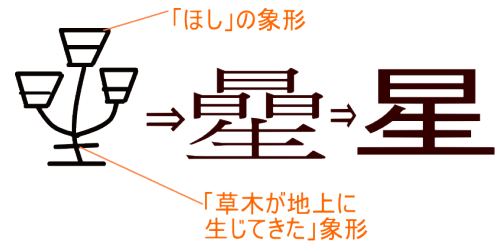
ここから「ひかり」「あきらか（明るくきらきら輝く）」といった意味が生まれます。

一方、下部の「生」は、「草・木が地上にはえた」をあらわす象形文字です。

地上に「はえる」ことで「いきる」ことになるので「はえる」「いきる」という意味が生まれます。

ただしここでは「生」は「清」に関連して「すみきっている」という意味になります。


したがって、「ほし」という漢字は「晶」と「生」が上下に組み合わせあって「星」（旧字体）となり、さらに上部の「晶」が「日」と省略されて、「星」となりました。



ちなみに星の誕生は、恒星（太陽のように自ら光る星）が誕生した後に、その破片で惑星（地球のように恒星との引力によって周回する星）が誕生するようです。

今回のつばやきは、調べてみたらとても難しい内容になってしまったので、小学生の子どもたちとは話題にすることができませんが、発想することの素晴らしさを感じさせてくれました。（高校生ぐらいだったら一緒に調べて楽しめたと思います。）

幼い時の発想はとても豊かだと思います。ご家庭においても、お子さんのつばやきを大切にして、学びを広げてみてください。

ホームページ更新しました	来週の予定				
	月	日	曜	時間	行事等
○委員会（今年度最終） ○授業参観・なわとび集会 ○朝礼 校長講話 美化委員表彰 	2	13	月	14:55	朝礼 一斉下校
		14	火	15:45	一斉下校
		15	水	14:55 15:45	ふれあいタイム（5年生企画） 1・2年スクールガード下校 3～6年下校
		16	木	14:55 15:45	1～3年下校、4～6年クラブ 4～6年下校
		17	金	14:55 15:45	資源回収 1～3年下校 4～6年下校

子どもたちの活動の様子は、本校ホームページをご覧ください。

十四山東部小学校

で

検索

または

